

「サツマイモの花と実」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

サツマイモは通常「苗」から育てる。「苗」は、親であるサツマイモの植物体の一部であるから、そこから育ったサツマイモは、遺伝的に同一である。つまり「人為的な無性繁殖」ということになる。「挿し木」や「とり木」(茎の一部の皮を剥いで、そこに粘土を巻き、根が発生したところで切断して植える方法)と同じである。しかし、花や実が無いのか、というとそんなこともない。サツマイモも顕花植物(種子植物)なので、花も咲くし、果実も種子もできる。



これが「サツマイモの花」である。昨日、郊外園のサツマイモ畑に咲いていた。実にアサガオにそっくりである。それもそのはず、アサガオ *I. nil* もサツマイモ *I. batatas* も、おなじ分類群(ヒルガオ科サツマイモ属 *Ipomoea*) に属し、非常に近い「親戚」なのだ。

しかし、サツマイモ畑を広範囲に見渡しても、めったに花は咲いていない。これは、関東地方の気候(日照時間が主な原因)では、サツマイモはほとんど花をつけないためである。もっと南の地域では、ずっと開花が多いという。花そのものが少ないので、受粉のチャンスも少なく、結実することも非常に稀である。

また、たとえ種子がたくさんとれたとしても、それを発芽させて栽培することはしないという。これは、サツマイモ品種の保全が主な理由で、有性繁殖でできた種子は、遺伝的に一種の危険があるのだという。

そんなわけでサツマイモを種子は、品種改良など、研究的な用途に限られている。そういえば、ホームセンターで、「サツマイモのたね」というのは、一度も見かけたことがない。



花弁を取り去ってみると、中には雄蕊と雌蕊も揃っていた。これもまたアサガオの花の中とそっくりだ。



果実も見つけた。これもまたアサガオの果実と瓜二つある。まだ未成熟な果実だったので、このまま経過を見ようと思っていたのだが、持ち帰るのをすっかり忘れてしまい、惜しいことをした。せめて切断して、中を見たかった。あとで調べたら、サツマイモの種子は、形も色もアサガオにそっくりだった。